

# Monthly Letter

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～平成31年度)  
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』  
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



文部科学省  
地(知)の拠点

特色人材  
育成部会

## 「地域と協働した大学の活動！」の成果報告会を開催

特色人材育成部会では、参加大学ならびに地域産業の強みや特色を活かし、6分野(①原子力技術、②ふくいブランド創出、③まちづくり、④バイオ・六次産業化、⑤国際・地域、⑥看護福祉)を、地域と連携した教育・研究における重点分野とし、平成27年度の事業開始以降地域との関わりを通して、自ら地域産業を生み出す人材となるよう、人材育成を継続しています。平成30年12月15日にAOSSA7階Fスクエアにおいて、ふくいCOC+連携5大学全てから学生発表者が登壇し、17プロジェクトの事業成果報告会を開催しました。



特色人材育成部会長  
福井工業大学 羽木秀樹氏

### (1)原子力人材育成プロジェクト

福井大学と福井工業大学は、今後福井県内の原子力関連等の幅広い分野において中心に立って積極的に動ける人材の育成を目指し、2大学合同の勉強合宿を実施、また廃炉作業が進む福島第1・2原子力発電所への視察研修、ならびに福井県児童科学館(エンゼルランドふくい)で開催された『青少年のための科学の祭典』では、「役に立つ放射線」というテーマで、県内企業と連携した原子力関連の展示の報告

### (2)ふくいブランド創出プロジェクト

福井大学での『繊維を用いたイノベーション』と、福井工業大学が主催、開催した若狭町みさき漁村体験施設“みささち”での『福井へしこサミット2018』の活動などの報告



### (3)地域と歩む、まちづくり分野プロジェクト

高浜町で開催された『和田de路地祭2018』について5大学の学生による活動報告と、仁愛大学が地域貢献活動として実施した『地域共生社会にむけたスポーツイベントの実施』と『環境とICTを親子で学ぶ地域連携教育』の報告

### (4)バイオ・六次産業化推進プロジェクト

福井大学での『福井産ナツメと福井産酵母を原料とする機能性食品』、福井県立大学での『ふくいとトマトみずようかん』の開発についての報告

### (5)国際・地域分野プロジェクト

福井大学での『地域ブランド商品の開発』、『留学先で取り組んだPBL』についての報告

### (6)地域で活躍できる看護・福祉人材の育成

敦賀市立看護大学・福井大学・福井県立大学が取り組む連携授業と、公開講座の開催についての報告

学生達が取り組む事業が年々多くなるとともに、学生間で活発な質疑応答が行われ、賑やかで充実した報告会になりました。

次年度に向け、ワーキンググループ間でのプロジェクトの連携についても意見が出され、今後も地域とのプロジェクトに取り組む学生達からは目が離せない状況です！ご協力を賜りました皆様に心から感謝申し上げます。

(後日、実施報告書にとりまとめ、以下ホームページに掲載予定です。  
<http://www.allfukui-cocp.jp/>)

(福井工業大学 地域連携研究推進センター センター長 羽木秀樹先生より寄稿いただきました)

看護福祉分野WG(福井大学・福井県立大学・敦賀市立看護大学の3大学連携)による公開講座を、平成30年12月22日に、福井県立大学を会場に開催いたしました。なお、敦賀市立看護大学の参加学生は、TV会議システムで遠隔聴講しました。

「地域医療を支える看護と福祉の連携」をテーマに第一線で活躍されている3名の講師の方(飯田京子氏:社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲 生活支援部長、西田幸夫氏:社会福祉法人びわこ学園 知的障害児地域生活支援センター 通所課課長、平岡恵里奈氏:つるが生協訪問看護ステーションハピナス 管理者)をお招きし、現場での多職種連携の実際と課題について、事例を通してお話をいただきました。

3大学の学生164名(福井大学54名・福井県立大学54名・敦賀市立看護大学56名)と一般・教職員8名の合計172名の参加があり、皆、講師のお話を真剣に聞く姿が見られました。

参加者からのアンケートでは、今回の公開講座に参加した9割以上の方が「地域医療を支える多職種の連携に理解が深まった」と回答するなど、とても充実した公開講座となりました。御協力を賜りました皆様、心より御礼申し上げます。



飯田 京子氏① 西田 幸夫氏② 平岡 恵里奈氏③

テーマ① 「入所施設で暮らす重症心身障がい者の生活支援  
～医療・看護・福祉の連携～」

テーマ② 「地域で暮らす重症心身障がい者の生活支援～多職種の連携～」 双方向遠隔授業システムを利用(会場:福井県立大学)

テーマ③ 「多職種協働による在宅療養者支援の実際と訪問看護師の役割」

(敦賀市立看護大学 看護学部 教授 高原美樹子先生より寄稿いただきました)

## 海外進出している福井県内企業への積極的な就職にむけた現地調査レポート

平成30年12月18日～12月22日、アジアのグローバル化に対応して海外に進出している福井県内企業への積極的な就職を増やす取組みを模索するため、タイに進出している福井県内企業[タイに所在するSAHAサーレン、STC日華、ふくいバンコクビジネスサポートセンター、福井銀行バンコク事務所] 日本学術振興会バンコク研究連絡センター(JSPS)及びユアサバッテリー(タイ)を訪問し、国内外の留学事情等について意見交換しました。

JSPSによるとタイの学生は、欧米志向であること、アメリカ、オーストラリア、シンガポールへの留学が多く、タイから日本へは4,000名程度の学生が留学しているとのこと。

SAHAサーレンの佐藤社長は、優秀な人材の確保に苦労されており、同社ではインターンシップも考えられているようで、STC日華の加藤ゼネラルマネージャーも同様のことを述べておられました。

ユアサバッテリー(タイ)の村田CEOからは、既にインターンシップを受け入れていることを伺いました。

また、ご自身の海外での経験を福井の学生にも伝えたいとの熱い気持ちをお聞きすることも出来ました。これを受け、2月19日から開講する「ふくいを知る・見る・考えるⅡ」で講義をしていただく予定です。

なお、今回、県内出身者(内福井大学出身3名)で現地責任者の方5名と懇談する機会もあり、皆さんが「福井」という故郷を意識しつつグローバルな最前線でご活躍されていることを肌で感じる事ができ、正にCOC+事業のあるべき姿の一端を示していると思った次第です。



### 編集後記

レポートにも書きましたが、福井県内の大学を卒業されて海外で活躍されている姿を拝見して、感激しました。「30年前に福井大学の学生でした」と話された方とは、木造の古い部室のことで話が盛り上がりました。年齢を重ねるにつれ、故郷への思いが強くなるようです。学生のみなさんも、今の福井を知って、見て、考えてみてください。いつかは、福井を懐かしく思える時期がくると思いますよ。(小林)

